

技術生かし医療現場支援

新型コロナウイルスの対応に追われる医療現場を支援しようと、八戸工業大が飛沫などによる感染を防ぐフェースシールドを製作している。22日以降、数回に分けて八戸市立市民病院

に計300個を寄贈する予定で、生徒や教員らは「医療従事者の力になりたい」との思いを胸に、急ピッチで作業を進めている。

(三浦千尋)

八工大がフェースシールド製作



市民病院に300個寄贈へ

同大では、感染症対応の隔離施設を即席で設置できる「陽陰圧化可能医療用空気清浄機」を同病院に貸し出すなどの支援を次々と実行している。

フェースシールドは同大工作技術センターが中心となり製作。フェースシールドの需要が全国的に高まり、手に入りにくい状況を知った同センターの日影学工師が、同大にある設備を活用し、5月末から顧問を務める同大のサークル「メカトロニクス研究会」の学生と共に取り組みを始めた。

フレームは3Dプリンターで約16時間かけて製造。中を空洞にして丸みを帯びた形状にすることで作業時間を短縮した上、着け心地にもこだわった。

フェースシールドの製作に取り組む日影学工師(中央)と学生

サークルの部長で3年の小倉佑太さん(20)は、「このフェースシールドを使ってもらいたい、安心して治療に当たってもらえたら」と願いを込める。日影工師は「今後も工業大学の技術を生かした支援をしていきたい」と話していた。